

<東北地区納税貯蓄組合連合会長賞>

## 税について考えること

天栄村立天栄中学校

3年 なみき 並木 しほ 志帆

「税」今日本で最も注目を集めていると言っても過言ではない。内閣で議論されている消費税増税についての問題があるからだ。以前の私は全く税に興味を示したことはなかったが、連日報道されるニュースを見ているうちに自分にも深く関わりのあること、そして避けては通れないことを知った。

何故、政府は消費税を増税しようとしているのか。それには日本の社会に問題がある。今後、少子高齢化により、現役世代が急激なスピードで減っていき高齢者は増えていく一方だ。社会保障など、現役世代の負担が既に年々高まりつつある中で、社会保障財源のために所得税や法人税の引上げを行えば、一層現役世代に負担が集中することとなる。特定の者に負担が集中せず、高齢者を含めて国民全体で広く負担する消費税が、高齢化社会における社会保障の財源にふさわしいと考えられているのだ。しかし話は上手く進まない。世論調査によると、消費税増税について反対と答えた人は63.1%に上った。反対が過半数を占める結果となったが、私たちは税の使い道についてきちんと把握できているのだろうか。

例えば、私達が病気やケガをした時、病院へ支払う金額の一部を、税金で負担してくれている。もし税金がなければとても高額なお金がかかり、お金に困っている人は病院に行くことができなくなってしまふ。そして、緊急時には欠かせない救急車や消防車も税金で走っている。私たちが普段使用している小中学校の教科書や実験器具、体育用具なども全て税金で賄われているのだ。このように、私達の生活に欠かせないあらゆる事に税金は使われている。

日本の税率は5%だが、これは世界各国で最も低い税率だ。隣国の韓国は10%、イギリスは20%、福祉が充実しているスウェーデンでは25%となっている。消費税だ

けみると、消費者に大きな負担になっているようだが、それらの税金は医療や年金、福祉、介護などの社会保障にあてられ無料で診察を受けられるなどのサービスが充実している。

高齢化社会という問題に直面している日本。そのための福祉サービスなどは以前に増して改善していかなければならない。このような状況であるから、国民一人一人が税について関心を持たなければならないのだ。忘れてならないのは、税金によって私たちの生活が成立しているということ。自分も気付かないうちにいろんな人に支えられ、お互いが助け合っている。今このような生活が送れていることに感謝し、明るい日本を後世に残すためにも増税に批判するだけでなく、きちんと理解することで税金を納める義務を果たしていきたいと思った。